

美術館のひみつたんけん隊

神戸市立小磯記念美術館

日時
てんじないよう

平成28年6月25日(土)

展示内容

小磯良平作品選 I

—油彩—

てんじしつ
(展示室1)

新聞連載小説挿絵原画展

てきれいき
「適齢期」(二)

しらかわあつし ちょ
【白川渥・著】

てんじしつ
(展示室2)

コレクション企画展示

—絵画の中の“和”—

てんじしつ
(展示室3)

自己紹介

ボランティアの方たちと
いっしょに、自己紹介と「行っ
てみたい所」についてお話
しました。



展示室でみつけよう

てんじしつ
展示室にある、えい以外のものをいろいろさが
してみよう。
なにをみつけられるかな？



これはおんしつどけい
と言って、おんど しつど
わかるきかい
です。「暑くなった、寒くな
った」、「湿っているか、湿っていないか」
がわかるようになっています。
ずっと同じになっているか、この機械で
見て、チェックしています。

ついでに（^{かせつへき}仮設壁）の右側と左側（^{ちが}違い）
がわかるかな？壁（^{かべ}）の明るさ（^{ちゅうい}）に注意（^{ちゅうい}）して
みてね。

一（^{ひだり}左）には上の（^{てんき}電気）（^{らいと}ライト）
があるけど、こ（^{みぎ}右）にはない。

それは絵（^{しゅるい}）の種類（^{しゅるい}）によって明るさ（^{あかり}）を変（^か）え
ているからです。左側（^{ひだり}）は油（^{あぶらえ}）絵（^え）、右側（^{みぎ}）は紙（^{かみ}）
の作品（^{さく}）。紙（^{かみ}）は光（^{ひかり}）で傷（^{いた}）みやすいので、油（^{あぶらえ}）絵（^え）
作品（^{さく}）より明る（^{あかり}）さが抑（^{おさ}）えられています。



美術館のひみつたんけんへでかけよう

しゅうぞうこ 収蔵庫



この大きな（^{とびら}扉）の中が、美術館の作品（^{さく}）
を保管（^{ほくわん}）している収蔵庫（^{しゅうぞうこ}）です。この中（^{うち}）に
は、学芸員（^{がくげい}）さんをはじめ、限（^{かぎ}）られた人（^{ひと}）
しか入（^い）ることはできません。



収蔵庫（^{しゅうぞうこ}）の中は、作品（^{さく}）にとって最（^{さい}）適（^{てき}）の環（^{かん}）境（^{きょう}）
であるように、いつも温（^ぬ）度（^ど）と湿（^{しつ}）度（^ど）が一定（^い）定（^{てい}）
に管理（^{かんり}）されています。

ここには、小磯（^{こいそ}）さんの作品（^{さく}）だけでも約（^{やく}）
2800 点（^{てん}）以上、全部（^{ぜんぶ}）で 3000 点（^{てん}）以上の作品（^{さく}）
が保管（^{ほくわん}）されています。

ろうか 廊下

展示室の裏側にある、廊下へ進みましょう。

ここには絵を展示するために必要な、たくさんの道具が置いてあります。



かなづち、ペンチ、メジャー、水平器などは絵を展示するときの高さをあわせたり、キャプション（絵の名札）をつけたりするのに使います。

展示室にあったライトの光の量（明るさ）を測る照度計や、絵を吊るす時に必要なシャトル（移動式の台座）もありました。



けんきゅうしつ 研究室

研究室では、学芸員さんが今後の展示会の企画や、調査研究をおこなっています。大きな本棚には、研究のための資料がたくさんつまっています。

学芸員さんに、次の展示会の設計図（図面）を見せてもらいました。



たんけんの成果をまとめよう

写真・絵と文章^{ぶんしょう}で、今日見てきた美術館のひみつを画用紙にまとめました。



今日発見してくれたことを、みんな上手にまとめることができました。

